

久住先生の思い出

○先生は白新中学校昭和35年入学、38年卒業第15期生の2, 3学年時代を担当されました。

2年生になってクラス替えがあり、久住先生が担任となりました。以後2年間担任としてお世話になりました。最初の噂で久住先生は教育委員会(?)との約束で不本意ながら、公立学校の教師をつとめておられる、とのことでした。そのわけは、先生の大学時代、高田の芸能学科に県内留学をし、その時の約束(契約?)が(教育委員会との?)大学を卒業してから4年間は公立学校に勤務するというものだったと聞かされました。どうしてそんなことを生徒である我々が知りえたのか記憶にありませんが、そんな噂が立ち、久住先生はいいやながら俺たちを教えるんだ、との感想を抱くことになりました。そしてその次に生まれた意識は、そんなら先生を公立学校に来て良かったと思わせてやろう、いやいやながら担任している先生を見返してやろうという一種の抵抗感あるいは挑戦意識でした。クラスで誰が言い出したわけではなく、先生をあつと言わせよう、それには、その頃学校でほとんどがクラス対抗でおこなわれていた行事に勝利して、先生を驚かせてやろうという共通の目的意識が生まれてきました。その後、そのクラス対抗の行事、大半はスポーツ競技でしたが、年2回行なわれた運動会では2年間で4回のうち3回優勝し、バレーボール大会、相撲大会とほとんど学年で優勝することになりました。スポーツだけではなく、かるた大会にも優勝し、生徒会主催のクラスの団結力を争う(具体的な中身は忘れてしまいましたが)行事にも勝ったのです。優勝するたびに、これも勝ったのかという先生の驚く顔を見たかったのでしょう。最初は驚くだけだった先生も2年間の終わりころには、優勝のたびに満面に笑みを浮かべ、私たちにははっきりわかりませんでした。他の先生方に自分のクラスの生徒の活躍を誇らしげにしていたようです。(他の先生方からそんな話を聞きました)そしてある時の優勝時にどうしたことか、優勝報告の後の教室に豆八の小豆アイスを持ち込んで食べさせてくれました。当時、学校で給食以外の間食は許されないと思っていたのですから、小豆アイスが出てきたのにはびっくりしました。あれ、こんなこと許されるのかなあ、と半信半疑で、しかし大喜びでアイスをほうばったことを覚えています。

先生は4年の約束の人気を我々の卒業と同時に終え、私たちが卒業したように、先生も公立学校での教師のおやめになってさっさと新潟大学に移られました。実にあっさりしたものでした。その後、しかし、先生はクラス会には必ず参加してくれました。

今、先生の突然の訃報に接し、ただただご冥福を祈るばかりです。